

治維新何レモ國體ヲ損スルコトナカリシハ御稜威ノ然ラシムルモ
ノテアル、今回ハ敵國ノ爲或ハ我國體ニ汚點ヲ生スルオソレアリ
トイフノハ英米ノ宣傳ニヨリ國民ヲシテ之ニ迷ハシメサルヤウ對
策ヲ講スルノ要アリ固ヨリ我國體ニ汚點ヲ生スルカ如キコトハナ
イモノト信スルモ國民ニ疑問ノ念ヲ生セシムルコトナキヲ要スル
此點ニツキテハ國民全部カ全力ヲ注ク要アリ、次ニ
皇土ヲ保衛トアルモ之ヲ失フコトハ國家カ亡フコトナリ之ニ對ス
ル策ヲ講スルコト即チ聖戰目的ノ達成ヲ期セラレルトイフコトハ當

然テアリ如何ナルコトカアツテモ之ヲ全ウスルコトハ大切ト考
ヘル
要領ニアルコトハ何レモカクアラネハナラヌ、何モ云フコトナ
シ
之カ成功ヲ期スル爲ニハ申ス迄モナク生産ノ指導、食糧ノ確保
其ノ他必要ナル事項ハ多々アルモ當局ノ絶大ナル努力ノコトト
思フ、之ニ併行シテ大切ナルコトハ國民指導ニ關スル事項ナリ
コレニツイテ最モ深ク注意ヲ要スルコトハ戰局ノ推移特ニ不利

ナルトキ國民ハ悲觀シ易イコレニ食糧不足ヲ伴フト非常ニ動サ
レ易クナル、從テ惡イ奴ニハ斷壓ノ處置ヲ十分トル必要カアル
ト思フ

但シ權力ヲ以テ望ムコトハ極メテ注意ヲ要スル權力ヲ以テ望ム
コトハ不良人ノ感化ヲ防止スルニ止マリ根本ハ國民精神ニ喰ヒ
入リテ之ヲ善導スルコトハ全ウシ得ナイ、故ニ權力ト併行シテ
教化ニ俟ツコトヲ要スル我皇室ハ開闢以來一貫コノ方針ヲ以テ
國民_ニ望ンテオラレル。推仁天皇カ教化第一主義ヲ採リニナリ

之ニ反スルモノハ兵力ヲ以テ望マレタ方針ハ今日ト雖モ變化ハナ
イ、當局トシテモ此ノ尊キ御精神ヲ体シテ國民ニ望マネハナラヌ
即チ國民精神ノ根底ニ喰ヒ入リテ之ヲ善導スルコトハ必ス戦力ノ
向上トナル、今日國民ノ忠誠心ハ失ハシアラス祖先ノ遺風ヲ顯彰
スルコトハ万人ニ其心アリ然シ時々陰影ヲ生スルコトハ免カレヌ
今日先ツ注意セネハナラヌコトハ「戦争ハドウナルカ」トノ毀念
テアツテ人心ヲ引キ緊メルコトヲ要望スル
戦意ノ昂揚、忠誠心ノ發露ヲ十分ヤラネハナラヌ

平和ヲ希望スルコトハ決シテ誤マリトハイヘヌ。シカシ今日飽ク
迄戦争ヲ完遂セネハナラヌトキ絶對ニ平和ノ思想ハイマシメナク
テハナラヌ。自己安易ヲ求ムル精神ハ最モ不可ナリサモナクテモ
平和ヲ適當ト考ヘル人アルモ今日戰意ヲ昂揚セナケレハナラヌト
キ國民ニ此ノ心カ出テハ由々シキ大事ナリ戰局ノ推移ヲ克ク教ヘ
教化善導ニヨリ國民精神ノ根本ニ喰ヒ入りテ是正スルコト必要ナ
リ、皆豫ニオネカヒスル。

(吉積軍務局長記)

御前會議ニ於ケル軍需大臣發言要旨 (三〇六八)

軍需生産並ニ物的國力一般ノ現状ニ關シテハ綜合計畫局長官ノ説明ノ
通デアリマスガ第一・四半期ノ實施狀況ヲ見マスルニ海上輸送力ニ付
キマシテハ總量的ニハ概ネ最低目標ヲ確保シ得ベキ見込デアリマスガ
大陸穀類、鹽ニ關シテハ港灣荷役力ノ不足、機雷投下等ノ爲相當實績
不良デアリマシテ或ハ第一・四半期計畫量ヲ上半期ニ於テ實行シ得ル
程度ニ止マリ第二・四半期計畫分ハ殆ンド期待シ得ザル狀況ニ陥ルコ
トナキヲ保シ得ザルコトヲ惧ルル次第デアリマス。又石炭ニ關シテモ
前記ト略々同様ノ原因ニヨリ鐵道及機帆船ノ輸送實績十分ナラズ之ガ
爲重要物資ノ生産モ相當計畫ヲ下廻ル狀況デアリマス

次ニ第二。四半期ノ軍需生産ハ海陸輸送力ノ推移ニ左右セララルコト最モ大デアリマスガ汽船輸送力ハ主トシテ空襲ノ激化ニ依リ前期ニ比シ更ニ著シク低下スベク大陸糧穀及鹽ノ輸送ニ重點ヲ置キマストキハ軍需生産關係トシテハ僅少ナル石炭ヲ輸送シ得ルニ止リ機帆船輸送力及鐵道輸送力ニ付テモ空襲ニヨリ前期ニ比シ相當低下スルモノト思料セラレマス

石ノ如キ海陸輸送力ノ低下ハ惹イテ軍需生産ノ基盤タル本州中樞部ノ石炭配當量ヲ前期ニ比シ相當大ニ低下セシメ産業稼働ハ前年同期ノ三割内外ニ低下スルモノト豫想セラレ特ニ重要ナル軍需關係資材ノ生産ニ於テモ前期ノ六割乃至七割程度ニ低下スルモノト豫想セラレマス

尙ホ航空兵器ニ關シマシテ現状ニ著シキ變化ナク七半期ニ於テ

ハ概ネ當初計畫ノ六割程度即チ月二〇〇〇〇機程度ノ生産ヲ維持シ得ル見込デアリマスガ疎開ヲ必要トスル實狀ニアリマスト航空工業ガ綜合工業タルノ特性ニ鑑ミ他ノ關聯工業ノ生産ガ減退スレバ其ノ影響ヲ蒙ルコトハ免レ得ナイト考ヘマス

而シテ若シ沖繩ノ戰局最悪ノ事態ニ陥ルガ如キ場合ヲ想定致シマスト軍需生産ハ更ニ惡化スル懼ガ頗ル大デアリマス以上ノ如キ狀況デアリマスノデ今後ノ軍需生産維持ハ主トシテ海陸輸送力ノ確保如何ニ關シマスルガ故ニ兩統帥部ニ於テハ空襲ニ對スル海陸輸送機關ノ防衛ニ關シ強力ナル措置ヲ講ゼラレンコトヲ特ニ要望ス

ル次第デアリマス

以上申述べマシタルガ如ク情勢ノ推移ニ依リマシテハ先ニ綜合計畫局
長官ノ述ベラレタル生産ノ見透ハ更ニ急激ニ黒化スル可能性ガアルノ
デアリマスガ前者ノ見透程度ノ生産ヲ遂行致シマスルガ爲ニモ容易ナ
ラヌ決意ヲ要スルモノト考ヘマス依テ軍需生産ニ從事スルモノト致シ
マシテハ一方軍部ハ素ヨリ各關係者ト緊密ナル聯結ヲ保持シ生産意然
敢闘精神ノ昂揚及國力ノ急速ナル戦力化ニ對シアラユル手段ノ方途ヲ
採リマスルト共ニ他方軍需行政ニ關スル關係省ノ職域ヲ明定シ其ノ職
域トスル所ニ付テハ全責任ヲ以テ果敢ニ其ノ任務ヲ遂行シ得ル如キ方
策ニツキ速急ニ所製ノ措置ヲ講ズルコトガ絶對ニ必要ト存スル次第デ

御前會議ニ於ケル外務大臣兼大東亞大臣發言要旨

米英、蘇聯及重慶ノ動向ニ就テハ概略ハ「世界狀勢ノ判斷」ニ於テ陳
述ノ通りテ御座イマスガ、之ニ關聯シ若干所見ヲ申上ゲ度イト存ジマ

一 點ハ主ナル敵米國ノ戦争指導ニ關シテ御座イマス、米國ハ内外
ニ於テ或程度ノ困難ニ遭遇シテ居ルノハ事實ト認ラレマスガ、帝國
ヲ比較的ニ短期間ニ屈伏セシメ待ベシトノ自信ヲ固メテ居ル模様デア
リマシテ、帝國ニ對シ無條件降伏ヲ強制セントスル意圖ヲ堅持シテ居
ルガ如ク、對日戰意ノ喪失ヲ近キ將來ニ期待スルコトハ不可能デアリ
マス、而シテ英國ハ結局米國ニ追従スルノ外ナク、兩者ノ間隙ニ乘ズ

シ餘地を先ツ無イコトヲ御座イマス。

第二點ハ米英對蘇聯ノ確執ニ關スル見透シテ御座イマス、對獨戰爭ノ終了ガ米英蘇間ノ協調ヲ弛緩セシムル一材料タルコトハ否定シ得ナイ所デアリマシテ、獨逸其他歐洲各國ノ戰後處理、近東問題、世界平和機構等ニ付キ、今後米英對蘇聯ノ間ニ移多ノ確執ガ起ルコトハ豫想ニ難カラザル所ヲ御座イマスガ、他面米英側モ又蘇聯側モ、戰後ノ平和維持ノ可能性、從ツテ戰勝ノ結果ヲ確保シ得ベキ可能性ハ懸ツテ三國間ノ大局的協調ノ持續如何ニ在リト認識シテ居リマス關係上、大東亞戰爭繼續中ニ右協調ガ破局ニ陥ルガ如キコトハ容易ニ期待シ得ザルコトヲ御座イマス。

第三點ハ蘇聯ノ對日動向ニ關聯シテテ御座イマスガ蘇聯ハ昨年十一月「スターリン」ガ日本ヲ侵略國ト呼ビ、本年四月五日ニ至リ中立條約ノ繼續ヲ不可能ナリト通告シ來レル以後ハ、事實上ハ帝國ニ對シ何時ニテモ敵對關係ニ入り得ル態勢ヲ整へ來ツタノデ御座イマス 元來戰時ニ於テハ外交ハ軍事ト表裏一體ヲ爲スモノデアリマシテ、外交戰局ノ進展ニ由リ多大ノ影響ヲ受ケマスノミナラズ、外交交渉ノ成否モ之ニ依ル所大ナル次第デアリマスルカラ、蘇聯ヲシテ中立ヲ守リ通セシ得ルヤ否ヤモ、窮極ニ於テ戰局ノ推移ニ左右セラレル所ガ尠クナイノデ御座イマス。然ルニ近來蘇聯ハ日本ガ遂ニハ米國ノ軍事力ニ壓倒セララル可能性大ナリト見テ居ル模様デアリマスカラ、蘇聯ヲシテ中

立ヲ維持セシムル爲ノ外交ハ極メテ困難デアルト申サネバナリマセヌ

ガ、帝國ガ米英ト死力ヲ竭シテ戦ヒ居ル今日蘇聯ノ參戰ヲ見ルガ如キ
場合ニハ我死命ヲ制セラルル次第デアリマスカラ、外交當局トシテハ
蘇聯ヲシテ中立ヲ維持セシムル爲萬般ノ努力ヲ拂ツテ居ル次第デ御座
イマス。但シ右様ハ次第デ御座イマスカラ、嚴正中立以上ニ我方ニ好
意的ナル態度ヲ執ラシムルガ如キコトハ戦局ノ推移格段ニ帝國ニ有利
トナラザル限り殆~~ク~~可能ト申ス位至難デ御座イマスカラ、此ノ種好
意的態度ヲ見越シテ指導方針ヲ決定スルカ如キハ嚴ニ慎ムヘキコトト
考ヘラルル次第デ御座イマス。

最後ニ重慶ニ就テ簡單ニ申上ゲ度イノデ御座イマス從來ヨリ重慶工作

ナルモノガ幾度カ試ミラレテ來タノテ御座イマスガ、國際政局及
戰局ノ現段階ヨリ見マシテ單ニ日支間ノミノ全面和平ヲ實現スル
ナルハ勿論テ御座イマシテ、此ノ如キ工作ハ重慶ノ對日謀略ニ乘
ゼラレ、少クトモ重慶ノ戰意ヲ強化スル結果ニ陥ツタノテ御座イ
マス。尙又米支關係ヲモ考慮ニ容レタル日支全面和平ノ可能性如
何ト申シマスレバ、之レハ日米間ノ和平トモ相成リマスノテ現在
ノ處實現不可能ナルコトハ明カテ御座イマスガ、重慶ニ對シテ我
ガ公正ナル態度ヲ示シ政治攻勢ヲ執ルコトハ軌道ニ乘ツタモノガ
御座イマスノテ今後共勢力ヲ續クル必要ト價值トガアルト存ズル
次第テ御座イマス。

御前會議ニ於ケル農商大臣發言要旨

我國內ノ食糧需給ヲ達觀シマスレバ、主要食糧ノ大約八、九割ハ之ヲ自給致シテ居リマス、事變後農業生産ノ各要件ガ累年惡化ノ度ヲ増シ來リマシタ爲農業總生産量ニ於テ減少ヲ來セルハ止ムヲ得ヌ所デアリマスガ、幸ニ米、麥、甘藷、馬鈴薯ノ所謂主要食糧ノ生産量ハ概ネ事變前ノ生産量ヲ今日迄維持シ來ツテ居リマス。是レ政府ガ此點ニ重點ヲ置イテ獎勵方策ヲ實施セルト、我農業ガ獨特ナル家族的小農經營ナルト、各農家ガ能ク國家要請ニ應シテ其ノ増産ニ努力シタルトニ依ルノデ御座イマス。需給上毎年大約一割内外ノ不足ヲ填補ハ事變當初

ハ専ラ臺灣米ノ移入ニ依リ、昭和十五年以降ハ主トシテ南方外米ノ輸入ニ依リ、次デ戰局ノ推移ニ從ヒ滿洲糧穀ノ輸入ヲ以テ之ニ代ウルコトトナリマシタガ、今ヤ其ノ輸入モ頗困難トナリ食糧上ノ危機ガ到來スルニ至リマシタコトハ「國力ノ現狀」トシテ述ベラレタル通りデ御座イマス。

今昭和二十年米穀年度ノ推算ヲ申上マスレバ

内地供給見込高合計	七一、六五五千石
需要見込高合計	八四、四六〇
差引 不足見込高	一二、八〇五

此ノ不足見込高ニ付テハ所謂幽靈人口ノ整理、配給量ノ合理的調整、

外食券ノ實施等國內ニ於テ各方面ヨリ補填ニカムル外更ニ防空備蓄米
ヲモ放出シテ約四、六七〇千石ヲ填メ尙不足スルハ、一三五千石ヲ滿
洲糧穀及朝鮮米ノ輸移入ニ待ツ事トナリマシタ。而シテ三月末マデニ
約一、七六九千石ヲ輸入シマシタノデ、四月以後輸移入ヲ必要トスル
量ハ約六、三六六千石（一、〇六一千屯）デアリマスガ、本年ノ大陸
物資輸送ノ特殊困難ノ爲ニ物動計畫ニ於テ配船關係上更ニ之ヲ四、二
四二千石（七〇七千屯）ニ減縮セザルヲ得ヌコトトナリ所要量ニ對シ
二、一二四千石（三五四千屯）ノ不足ヲ忍バホクナラヌコトト相成リ
マシタ。尙物動計畫上滿鮮糧穀類ノ輸移入ノ總計ハ一、六一五千屯デア
リマシテ右一般主要食糧用七〇七千屯ノ外ニアルコール原料用、軍需

集積用、軍需馬糧用、味噌其他ノ固有用途向等合計九〇八千屯ヲ御座
イマス。

然ルニ四月以降ノ輸移入ハ甚ダ不振ニテ糧穀各用途分ヲ通ジテ四月二
〇八千屯、五月二三〇乃至二四〇千屯合計四四〇乃至四五〇千屯ニ止

マリ。今後ノ豫測ハ困難乍ラ一應六月分ヲ二〇〇千屯見當ト致シ七月

以後ハ期待シ難シトセバ輸移入計畫總量一、六一五千屯ニ對シ僅カニ

六四〇千屯即約四〇%トナリ此比率ヲ以テ一般主要食糧用ニ充當スル

モノヲ推定セバ約二八〇千屯(一、六八〇千石)トナリ其ノ輸入計畫

七〇七千屯(四、二五〇千石)ニ對シ缺陷四二七千屯(二、五六二千

石)ト相成リ、**本**來ノ需給均衡上充足所要量ノ充當セザル分ノ總量ハ

四、六八六千石ノ不足トナル次第デアリマス。

本米穀年度ノ右不足量四、六八六千石ハ之ヲ如何ニ處理スベキト洵ニ
困難ナル問題デ御座イマスガ、先ツ^要需^ハ面ニ於テ關係各方面ノ格段
ノ協力ノ下ニ勞務特配整理ノ徹底的勵行、農村配給ノ合理的壓縮等ニ
依リ都道府縣ニ對スル一般配給豫定數量中ヨリ約二、〇〇〇千石ヲ捻
出シ得ル様努力致シ、他面供給ニ於テ馬鈴薯及麥類ノ供出促進、甘藷
ノ早畑供出、本年産米ノ早期出荷促進等ニ依リ極力補填ニカムル所存
デ御座イマスガ、尙相當量ノ不足ハ豫想セラル、ノデアリマシテ今後
現行ノ配給量ヲ維持スルコトハ至難ト存ジマス。加之今後國內交通事
情ノ混亂、輸送力ノ減退等ヲ考慮ニ入ル、トキハ或ハ地域的ニ或ハ時

期的ニ配給量ガ現行標準ニ比シテ著シク壓縮セラレ、ノ余儀ナキニ至ル場合モアルコト、存セラレマス。

配給量減縮ノ實施ハ結局國民戰意ニ及ボス影響ニ於テ國政上多クナラズ作戦上深キ注意ヲ要スル問題ニシテ單ニ食糧管理上ノ必要ノミヨリ直ニ之ヲ國民ニ知了セシム可キニアラス。漸次ニ其止ムヲ待サル國情ヲ理解セシムルト共ニ食生活ノ科學的改善、未利用資源ノ活用普及等其影響ノ緩和ニ關シ豫メ爲スベキコトヲ致シマシテ能ク其時機ヲ選ルベカラヌト考ヘテ居リマス。

尙本年度ノ麥作ハ概シテ不良デアリマシテ當初ノ需給推算デハ新麥ニ依リ米^並換算シテ七〇〇〇千石分ヲ配給スル見込デアリマシタガ、其ノ實現ハ六ツカシク相當不足ヲ生ズルノ止ムナキ次第トナリマシタガ之ニ對シテハ需給計算外ニ於テ政府ノ所有スル二百數十萬石アリマスノテ此ノ際全部其ノ^軍需ニ充ツルコトト致シマス。之ハ食糧管理主務當局者ガ豫メテ管理制度運用上^軍ノ非常時ノ突發ニ慮スル最後ノ備ヘトシテ零細ナル所謂集計ニズレ後レタ古麥其他ヲ丹念ニ蓄積シ來リタルモノデアリマス。

尙一般食糧用以外ノ多量^軍用輸入滿鮮穀類ニ付テハ國民食糧ノ此ノ如キ事情下ニ於テハ軍部當局ニ於カレテモ其ノ運営ニ關シ蓋シ深遠ナル

意義ヲ認メ居ラルルコト考ヘマス。適當ナル機會ニ於テ御協力ヲ願
出度ク存ジ居ル次第デアリマス。斯クノ如クシテ農家ハ増産供出ニ益
々奮勵シ消費者ハ能ク切下ゲタル戰時生活ノ乏シキニ耐エ。軍部亦深
ク之ニ慰ヒテ致サルルニ於テハ本年ノ食糧難局ノ突破ハ決シテ不可能
ニアラズト信ズルモノデアリマス。

若シ夫レ次年度以降ノ食糧問題ニ付テハ一層ノ難關タルベク自給ノ隨
立ハ絶對命令ナルベク。尙戰局ノ模様ニ依リテハ各地域的ニ之ガ完遂
ヲ強行セザルベカラザルニ至ルコトヲ豫期シテ劃策スルヲ要シマス。
我國土ノ一六%ニ過ギザル農地ハ能ク我國民ノ九割ヲ養フテ居リマス
將來之ガ農耕ニ益々努力スベキハ論ヲ俟テマセン。國土ノ八四%ノ未開

ノ山野ハ之レ實ニ父祖ガ今日ノ爲ニ保存セル資源トモ見ルベキデアリ
吾等國民ハ時局下食糧自給ノ餘地ナキヲ嘆ズル前、須ラク開發港取ノ
意氣ニ自奮スベキデアリマス。全國民ニシテ此決意ニ起タンカ、ヤガ
テ食糧難局ノ打開トナリ、遂ニ必ズヤ試練ヲ經タル強健新進ノ民族タ
ル氣運ヲ齎サシコト、私ノ信ジテ疑ハヌ所テ御座イマス。